

# 卒寿紀行

## 小西 國男

(昭和26年機械科卒)



無観客のオリンピック2020開催、コロナ禍の2021年私は90歳卒寿を迎えた。そしてまた秋工高卒業後70年になった。そこで少し過去を思い出してみた。

### (1)工業学校入学以前のこと

私は昭和6年(1931年)8月、秋田県仙北郡大曲町(現在の大仙市大曲)に生まれた。昭和19年、大曲尋常高等学校(国民学校)尋常科を卒業し高等科に進級した。この頃は中学進学には学区制があり、この地区の普通中学では角館中学か横手中学しか進学出来なかったが、角館中学受験に失敗して尋常高等科に進むことになった。この年春、角館中学4年になった兄貴は甲種予科練で土浦海軍航空隊に入隊した。夏には秋田市の某女学校で教師をしている姉は、勤労奉仕の生徒の付き添いで神奈川県相模原市に出かけた。家には私の他、父母と病弱な上の姉と小学生の妹・弟がいた。この秋、父が中風で倒れた。以前雇ったことがあったので、いわゆる当たり直しであった。そのこともあり姉は勤労奉仕先から戻らしてもらったが束の間、今度は学校の舎監になり秋田市の学校からは月に2回程しか帰宅できなかった。それでも私達には心強かった。

昭和19年から20年にかけてのこの冬は、私が在郷中の19年余り一番雪の多い年で、家の雪降ろしに苦労した。我が家の前の道路(その頃はここが国道)の雪の高さは二階近くまであり、家に入る

るのに階段をつけて出入りしなければならなかった。学校ではこれまた大変で、古い体育館が雪の重みで潰れそうだと毎日のように雪降ろしをしたが、翌日登校すると屋根と下からの雪が繋がって、建物がギシギシ音をたてる始末だった。窓から1m位溝を掘って屋根と外の雪を離す作業をした。こんな作業ばかりで勉強は二の次であった。

昭和20年の2月になって、どこか進学しようとした。近くに横手工業学校ができたが、どうせ進学するならば秋田にある学校を選んだ方が姉とも連絡が取りやすいと考えた。担任の先生とも相談して秋田工業学校を受験することにした。前年からそれまでは高等科2年卒業してから入る工業学校に、小学校卒業してから入ることができ、新たに航空機械科ができたのでこれを受験することにした。実は小学5・6年頃から従兄の模型飛行機店で手伝いをしていただけで、兄貴が予科練に行っていることもあり、飛行機が大好きなのが理由であった。受験の結果、無事秋田工業学校航空機械科に合格した。



戦前の秋工正門  
佐藤貞悦氏(S13M/故人)の  
卒業アルバムより

### (2)秋田工業学校

秋田工業学校に入学し

たのは昭和20年(1945年)4月、第二次世界大戦末期の頃である。私のクラスは約50人、上が昭和5年、下が昭和8年生まれの4歳違いの人達がいる。クラスの中にはなかなかの者がおり、入学早々上級生から呼びつけられて気合をかけられたり、殴られたりするものもいたが担任は生徒監の小山(直)先生だったので上級生は下手に手をだせなく随分助かった。

私は大曲から秋田まで汽車通学で、朝6時過ぎの汽車に乗り、7時半過ぎに秋田駅に着く。私の利用する奥羽本線上り組、同下り組、羽越線組、船川線組とほぼ同時に到着するので駅前には混雑していた。各線毎に降りた生徒は隊列を組み学校に向かった。駅から学校までのコースは大きく分けて、手形方面、千秋公園方面、保戸野方面などあったが、どのコースを通るかは当日上級生の誰かが決めていた。先頭を上級生が先導したり、下級生を先頭にして最後は上級生になるかであった。時にはふざけて女学校の列と並んで歩かせ、自分の目当ての女学生と並ぶように歩かせたりもした。

学科は国語・数学・生物・英語等があったが、英語は敵国の語学だから勉強しなくてもいいなどと先生自ら言ったこともある。この他に専門科目として機械工学、それに航空機関係(主にエンジン)の講義があった。この他に実習があったが、この春に機械工場が焼失したのでその後片付けが主であった。

しかしそれも束の間、戦局がいよいよせば詰まってきた。私達は食料増産のため動員された。秋田市土崎港に近い八橋競馬場跡、その後旧雄物川河口の砂地を開墾して豆などを植える作業であった。ここは八橋油田地帯の一角なので付近には石油掘削用の櫓が立ち、歩道の所々に石油が滲み出ていて油臭くこれには参った。時々警戒警報や空襲警報がかかったがその時は直ぐ作業を止めて附近に退避したり現地解散となった。豆植えが終わり今度は秋田市郊外の大野台に開墾に行った。秋田駅から6~7km位か、歩いて1時間半以上もかかった。松の木を切った後の根(飛行機等の燃料となる松の根油の原料)を掘り起こし、その後を開墾し豆を植えるものであった。そのころの服装は学生服にゲートルを巻き、自分の足より随分大きなサイズの革靴を履き、布で作ったズック袋を担ぎ、

\*\*\*\*\*

## 宝石・貴金属 専門店



## 伊藤貴金属店

TEL 018-862-2761  
FAX 018-864-8612

代表取締役 赤塚 京二 (昭和40年土木科卒)